付　録

文部省における
昭和 26 年度ローマ字教育実験調査
実　施　要　項

1　目　的

この実験調査は，義務教育期間中の普通の自然学級におけるローマ字学習の効果を調査して，ローマ字教育上の種々の問題点を発見するとともに，調査の結果を分析・評価して，ローマ字教育に関する基礎的な資料を得ようとするものである。

2　組　織

(1)　この実験調査は，文部省調査普及局国語課，国立教育研究所，国立国語研究所が協力して行う。

(2)　ローマ字教育実験調査研究会を設けて，指導案，テスト問題などを作成し，および実験調査の結果の分析・評価，その他について研究協議する。

(3)　実験調査に関する事務は，文部省調査普及局国語課において処理する。

3　対　象

次の条件によりうるもの

(1)　「小学校におけるローマ字教育実施要領」（昭和 22 年2月 28 日文部次官通達）によってローマ字教育を行う自然学級。

(2)　今後少なくとも3か年は継続して行いうる学校。

(3)　今年度は，現在までローマ字教育を実施していない小学校第3学年の学級であって，第2学期から実施しうる学級。

(4)　自然学級はこの実験調査開始のときの条件であって，その後については，児童の転入学などに特別の考慮を加えるものとする。

4　実験学級の選定

(1)　国立教育研究所の資料によって，学校の教育課程のグループを基礎に，学校の学級数，教職員ひとりあたり当りの児童数，および地理的条件等を考慮して選定した。

(2)　今年度の設置学級は 20 学級とする。

5　授業時間数および配当

(1)　1学年を通じて 40 時間以上を標準とする。

(2)　今年度は第2学期以降 40 時間とする。

(3)　今年度は 40 時間を区分して，前期 15 週間は1週2時間ずつ 30 時間，後期 10 週間は1週1時間ずつ 10 時間とする。

(4)　学習時間の配当と学習効果との関係について調査するため，以上の時間数の配当を下記の二つの種類に分けて行う。

甲類：前期 15 週間，30 時間の授業を1週 40 分単位で3回に行い，後期 10 週間 10 時間の授業は1週 60 分を2回以下で行う。

乙類：前期 15 週間，30 時間の授業を1週 20 分単位で毎日行い，後期 10 週間，10 時間の授業を1週 20 分単位で3回に行う。

(5) 甲類，乙類の時間配当を実施する実験学級は，下記のとおりである。

甲類：函館付小，秋田付小，光が丘，川崎，宇都宮付小，青木南，新鹿，若桜，法勲寺，隈府。

乙類：富谷，宮寺，常盤松，磐田北，浮孔，新宮，桑島，生石，東国分，深江。

6 教 材

(1) 学習指導は教科書を教材として行う。

(2) 今年度は第4学年の教科書を使用する。

(3) 使用教科書は，実験学級を設ける学校が選定し，文部省があっせんする。

(4) 副読本・参考書等は原則的に学習指導の教材としては使用しない。

7 学習指導法

(1) 指導法については，実験調査の条件をできるかぎり同じくするために，文部省において具体的な指導案を作成し，それによることとする。

(2) 今年度は，学習指導要領国語科編（案）に基いて学習指導試案を作成した。

(3) 宿題に類するものは，原則として課さないこととする。

(4) 課外指導は原則として行わないこととする。

8 実験調査項目

今年度は，特殊な調査項目は設定しない。

9 学習活動の観察記録

(1) 担当教官は，学習指導に当っては学習指導要領国語科編（案）および指導試案に基いて中心的な話題・題材と設定して，毎時間の教案を作成する。

(2) 学習活動について，学級別および個人別に綿密に観察し，学習指導観察記録簿に記録する。学級別学習効果の観察記録・効果判定は話題(教材)ごとに学級別学習指導観察記録簿に毎時記入し，それに個人の学習活動，その効果などの著しいものを並記する。個人別の観察記録・評価は，個人別学習指導観察記録簿にできるだけ詳しく，少なくとも1か月ごとに記入する。

(3) 観察記録の原簿は，文部省の求めに応じ，随時提出する。

(4) 観察記録・評価は所定の学級別，個人別の各様式により，1か月ごとに教育委員会を通じ，文部省に報告する。

10 テスト

(1) 担当教官は，学習指導の段階ごとに，随時，テストを行って，学習活

動の評価をする。テストの結果・評価については，教育委員会を通じ，文部省に報告する。

(2) だいたい，17 時間，30 時間の指導経過後には，文部省で指定する中間テストを行う。報告については第1項に同じ。

(3) 指導の 40 時間終了後には，教育委員会の協力を得て，実験学級全体についてテストを行う。

(4) 第2項，第3項以外のテストに要する時間は，40 時間のうちに含める。

11 国語学力テストおよび環境調査

(1) ローマ字文の学習指導の開始前，文部省で作成した問題により，漢字・かなまじり文による学力テストを行う。

(2) また，所定の様式により，環境調査を行う。

12 担当教官との連絡指導

(1) 必要に応じ，教育委員会を通じ，文部省と緊密な連絡を行う。

(2) 全国3か所において，ローマ字教育実験調査研究会の委員の参加を得て，指導を兼ねてデモンストレーションを実施する予定。

13 実験調査の結果

担当教官提出の観察記録の整理，テストの結果の整理，テストの結果と学習活動との相関関係の分析等を行う。

ローマ字教育実験調査研究会

久保田藤麿	調査普及局長
石黒修治	国語審議会委員
岩淵悦太郎	国立国語研究所第1部長
小田原喜治彦	大田区久原小学校教官
金子好郎	清明学園初等学校教諭
鬼頭礼蔵	ローマ字教育研究所教育部長
木宮乾峰	初等中等教育局初等教育課
久納六郎	港区赤羽小学校教官
佐伯功介	関東学院大学教授
桜庭信之	東京教育大学教育学部助教授
白石大二	調査普及局国語課
高野柔蔵	東京都教育庁指導部
原敏夫	調査普及局国語課長
丸山千織	渋谷区千駄が谷小学校教官
村上俊亮	国立教育研究所長
矢口新	国立教育研究所員

ローマ字教育実験学級名その他

県名	学校名	校長名	担当教官	児童数	つづり方の方式
北海道	北海道学芸大学函館分校付属	佐藤　永弍	中川　繁	38	N
秋田	秋田大学学芸学部付属	久司　慶三	小徳　忠男	50	H
山形	光が丘(酒田市)	村田　悌雄	渋谷　豊四	56	H
宮城	富谷	平島　武夫	渡辺　孝夫	44	H
新潟	川崎(長岡市)	鷲尾　末松	中村　正夫	45	K
栃木	宇都宮大学学芸学部付属松原	中村　藤樹	浜野　衛	45	K
埼玉	宮寺	中野喜代春	水村よし子	35	K
埼玉(川口市)	青木南	加藤　武緒	生方　弘代	51	H
東京	常磐松	椎野　開蔵	本橋　茂夫	55	K
静岡(磐田市)	磐田北	村松　武雄	榊原なみ子	61	N
三重	新鹿	尾川　貞夫	仲　敏郎	40	H
奈良	浮孔(大和高田市)	岡田彌九郎	吉川　成子	40	H
兵庫	新宮	中塚　光男	松浦　知巳	41	K
鳥取	若桜	小倉　威	藪田　芳子	44	N
香川	法勲寺	三谷　修平	山下　雄	44	N
徳島	桑島(鳴門市)	千葉清次郎	茂山　弘	32	N
愛媛	生石(松山市)	永木　良	新山　賢	53	N
福岡	東国分(久留米市)	蒲池　密城	稲益　静雄	43	K
熊本	隈府	高木　重人	岡本　計助	50	H
長崎	深江	中村　茂彦	吉田　鷹二	41	N

注：Kは訓令式，Nは日本式，Hは標準式（ヘボン式）を示す。

目標 / 時間	指導的質問によって読みを導く	黙読 / 音読	新いことば：提出語数（A.B.C.グループ別）	新いことば：提出の手続（意味を広げ明らかにする）	くり返し	単語を読む力：文脈を手がかりとする力	単語を読む力：語形の長さや特徴に注意させる。	単語を読む力：一目読みをする力	単語を読む力：似た語形を見分ける力	単語を読む力：同じ語形を同じ認める力	単語を読む力：語形を手がかりとする力	単語を読む力：短文や よく使われる文節を速く読みとる力	単語を読む力：音声分解	単語を読む力：ことばの構造を手がかりにする力	文を読む力：目的を持って読む習慣 意味を求めて読む態度	文を読む力：符号を解釈する力	文を読む力：初めて読む文のなかでどれが自分の読めないかを見分ける力	文を読む力：大文字と小文字	文を読む力：眼球運動の練習 図形を見分ける練習	聞く力	話す力	書く力：自由に書く／おぼえて書くことばを増す／見ながら書く	書く力：字の大きさ	書く力：「よく書き慣れた短文」の練習	書く力：学校名 年月日・氏名	書く力：符号	書く力：分ち書き	その他
1 2 3 4 5			20	ていねいに。	ごくていねいに（30回ぐらい）	絵と字とを結びつける。										○文の終りに[,]をつける。長音に[^]をつける。		児童が口で言うことばを字に書いて見せる。絵や実物によって何が書いてあるか，見当をつけさせてから文を読ませる。			○新しく習った単語を使って短文を口で言う。 ○だれ（何）が，いつ，どこで何（だれ）を，どんなに，どうした（どんなだ，何だ）というようなことをはっきり言うように指導していく。 ○方言音や方言的言いまわしを毎回一つずつ共通語で言えるようにしていく。 ○はっきりと発音をする。 ○10語くらいの短い文の形を使ってものを言うことができるようにする。少しずつ長い文を話すことができるようにしていく。 ○短い文は一度聞いたら復唱できる。 ○ひとの言った文がどんな単語をどんな順に並べてできているかに気づく。 ○教師のさしずは一度聞いただけで，それに従って行動する。	○指や黒板に書いたりする。 ○紙に字を大きく書き始める。		○年月日，曜日を黒板に書き始める。（Aグループ） ○めいめいが学校名，自分の名をいろいろなものに書き始める。（Bグループ開始。）		○単語カードを作る。	
6 7		Cグループについて。	12			絵を手がかりにしてことばを読んだり，絵と文とを結びつけたりする。												必要に応じ「文の初めへくる形」，「文の中へくる形」とし，ことばとして説明しておく。						○揭示替生を交互に同級の氏名を書く。（Aグループ）	○呼びかけたことばに[,]をつける。		
8 9 10 11 12 13 14 15 16	（必要があればBグループにも。）	文節などを正しくくぎって読む習慣をつける。自然の調子で内容にふさわしい読み方をする。	A.50 B.45 合計 A.82 B.77		ていねいに。（20回ぐらい。）				○語音を構成する音節ごとに聞き分けたり，同じ音節を認めたりする機会を持つ。（fe_ta_de などの変化形を容易にするもの，または一単語として使用されるものを指導する。）			○masuのついた形の指導。 ○動詞・形容詞などの変化形について必要に応じ指導をする。				○文の切れ目に[,]をつける。 疑問文に[?]をつける。 [!]		○大文字・小文字の関係を必要に応じ説明する。			○文を読んだら(1)どんな気持がしたか(2)自分だったらなんと言うか，何をするか(3)自分はこれからどうしようと思うか(4)自分のそれに似た経験を話す力をつける。	1.2cmのけいの中に書き始める。		○（Bグループ開始。）	○長音に[^]をつける。	○習った単語のグループ化を始める。	
17 18 19 20 21 22 23 24 25	Cグループについて。		A.83 B.73 合計 A.165 B.150 C. 80	○少し簡単に。（Cグループを除く。） ○児童が自分で読める単語はこの手続をはぶく。	15回ぐらい。（Cグループだけはていねいに。） ○10回ぐらい。		一目読みのできる語の数のテスト。						音声分解によって利益を受ける児童だけに対して指導を始める。 音声分解に伴う音節の見分け方を指導する。	○組織的指導を始める。		そのほか，いろいろの符号の意味を理解する。		○大文字と小文字の関係をまとめていく。			少し長い文でも一度聞いたら復しょうできる。（このあとでも必要に応じて指導する。）				○普通の疑問文に[?]をつける。			
26 27 28 29 30 31 32 33 34 35			A.120 B.100 C. 40 合計 A.285 B.250 C.120	○提出の一部を指導的質問に譲ることができる。 ○簡単に。（Cグループを除く。）	○7回ぐらい。 ○5回ぐらい。 ○児童自身読みとる語を増してゆく。（Cを除く。）								○特によう音，kk，ss，pp，n'などを含む単語を読む練習を時時行う。（書くことと連絡をつけてやってもよい。）											○住所・様・君の書き方（必要があればもっと早くてもよい。）	ABグループだけ。		（Cグループ開始。）	○文の切れ目に[,]をつける練習。	動詞・形容詞などのよく使われる変化形を正しく書く練習。	文の初めに大文字を使うことの組織的指導。
36 37 38 39 40			A.100 B. 80 C. 40 合計 A.385 B.330 C.160										一目読みのできる語の数のテスト。										Cグループはできる範囲で加わる。			○はねる音，nの次に[',]をつける場合の練習。		よう音，つまる音kk，ss，ppを正しく書く練習。

注意(1) この表は，教科書に応じて活用をくふうすべきである。
(2) この表に掲げたいろいろの力の学習指導は適宜組み合わせて指導するものである。
(3) ―――――― は機会のあるたびに取り扱う必要のあることを示す。
(4) [　　] は，常に引きつづき取り扱う必要のあることを示す。

国語シリーズ9

入門期における
ローマ字文の学習指導

MEJ 4039

昭和27年6月10日 印刷
昭和27年6月15日 発行

仮印

定価 55円

著作権所有者 文部省

発行者 奥石博
東京都千代田区飯田町1の24

発行所 統計出版株式会社
東京都千代田区飯田町1の24
振替東京 31043番

印刷所 統計印刷株式会社
東京都千代田区飯田町1の34